



年末大学生クリニック

毎年、12月27日～29日の年末に全国からチームを招いて「あららぎカップ」を開催しています。そして、30日には市内の女子中学生、ミニバスの子どもの対象に杉浦裕司先生によるクリニックを開催してきました。

今年は、杉浦先生はご都合がつかなかったのですが、杉浦先生が指導している東海学園大学の方が講師としてクリニックを開催してくれました。

中山中・西高から東海学園に進学し活躍している山下善弓さんを中心にクリニックは進められ、子どもたちは大学生のボールハンドリングの技術の高さに驚きながらも一生懸命真似をしながら頑張っていました。高山出身の選手ということで、子どもたちにとっては、身近な存在であり普通のクリニックよりも親しみをもって活動していました。

今後も高山からたくさんのバスケット選手が巣立ち、こうやって子どもたちに関わってもらえる機会が増えていくと素敵だなあと感じました。



編集後記

「23人」これは、私が中学校に入学したときにバスケットボール部に入部した部員の数です。当時は某アニメが流行していたこともあり、未経験でも中学校からバスケットボールを始める子が多かったように感じます。

もちろんミニバス出身の子もいましたが、そんな中でもレギュラーを勝ち取ってやる！と意気込んで入部していた仲間が多かったことを覚えています。

しかし、中学校の指導に携わるようになり、正直感じることは、未

経験者が中学校からバスケットボールを始めるということが非常に少ないということです。個人競技をやる子が多くなったことや少子化の影響もあるのかもしれませんが...

今回、広報を書いていて小学生バスケットボール教室やミニバス、クリニックなど小学生に関する記事を多く取り上げました。バスケットボールは本当に素敵な競技です。何とか中学校というカテゴリーでも多くの子どもたちがバスケットをやってほしいなあと感じました。(Y.Y)



TAKAYAMA AMATEUR BASKETBALL ASSOCIATION

飛騨高山のバスケットボールを盛り上げよう!

編集・発行：高山市バスケットボール協会

tabba.jp

高山市バスケットボール協会は

賛助会はじめ協会を支えてくださる皆様のお力添えをいただきながら、

地方が疲弊化する中で若者にバスケットボールを通じて

夢と誇りを持って頂き、この地域を支える大きな担い手としての存在を希望しながら

これからも協会活動に邁進していきます。



小学生バスケット教室

小学生のみんなに、バスケットボールの楽しさを広げようと、毎週土日にバスケットボール教室を開いています。

小学校から中学校に上がっても是非バスケットボールを続けてほしいという願いのもと、小学校バスケットボール教室の時間を利用して、中学生が小学生に教えながら活動する取り組みを行いました。

バスケットボール教室では、松倉中学校や東山中学校のバスケットボール部員を中心に小学校中・高学年の児童とハンドリングやシュート練習を行いました。

練習の終盤では、中学生・小学生の混合チームで3対3や4対4を行い、楽しい時間を過ごすことができました。

小学生は「中学生に教えてもらうのは緊張したけど優しくて面白かった。また一緒にやりたい」と楽しそうに語ってくれました。

一緒に活動した中学生も「自分が中1のときは、何も分からず入ってきて不安だったから、こういう風に一緒に出来るといいと思う」と話してくれました。

今、中学校からバスケットボールを始めようという子は少なくなっています。

こういった機会が「高山市のバスケットボールの普及につながるいいなあ」と思います。





ミニバスケットボール

昨年度は、高山男子ミニ、女子ミニが県内で大活躍し、県大会では男女アベック優勝をおさめました。男女共に優勝するなんて本当にすごいですね。ミニバスケットボールというカテゴリーが盛んになると、その上の中学校、高校といったカテゴリーも盛り上がり高山市のバスケットボール全体が活発になってきます。今回は、高山男子ミニ主将の角竹君、高山女子ミニ谷端さんにミニバスでの思い出を綴ってもらいました。

「ミニバスで学んだこと」 角竹 正多

ぼくは、これまでミニバスでたくさんのことを学ばせてもらいました。バスケットの上達はもちろんですが、仲間を信じること、思いやること、そして自分を信じて何でも一生懸命やることです。練習はきつくて大変でしたが、一度も「嫌だな」と思ったことはありません。それは、たくさんの仲間達と一緒にバスケットをすることが楽しかったからです。



ぼくが思い出に残っている試合は東海大会での浜松相生との試合です。身長の高さとスピードの速さにびっくりしました。でも、ぼくはコーチに教えてもらった粘り強いDFとゴール下での、しつこいスクリーンアウトでくらくらすることができました。ぼくは、このチームでは負ける気がしませんでした。一歩及ばず2点差で負けてしまいとても悔しかったです。

そのとき、県外のチームのコーチや仲間がすばらしい試合だったと褒めて、なくさめてくれました。ぼくは、そのような試合をさせてくれたコーチ、一緒に戦った仲間に「ありがとう」という気持ちになりました。

ミニバスでは、楽しかった思い出ばかりです。ぼくは、中学校でもバスケットをやりま。そしてまた、すばらしいコーチや先輩、仲間に出会えることを楽しみにしています。



「ミニバスの思い出」 谷端 玲名

わたしは、1年生の終わりの頃からバスケットを始めました。5年間の中の一番の思い出は、6年生になってキャプテンになり、初めて県大会で優勝したことです。



わたしは、4年生から少しずつ遠征についていこうになりました。そして5年生になり、第1・3・4Qで試合に出られるようになりました。

でも、5年生のときには県で3位でした。そして、6年生になり県大会がどんどん近くなってきました。わたしは、今まで以上に練習をがんばりました。

そして、県大会当日。今までの試合の中で一番緊張しました。準決勝はKSTと戦いました。第1Qでは、点差はほとんどありませんでした。でも第2Qから少しずつ点差がついていき勝つことができました。決勝では大垣と戦いました。第2Qまで全然点差がつきませんでした。

でも第3・4Qで力を合わせて勝つことができました。試合の後、みんなでハイタッチしたことが、ずっと心に残っています。

優勝したとき「今までバスケットをやってきてよかったなあ〜！」と改めて思いました。ミニバスで教えてもらったことを中学校で生かしたいと思います。

